

# 復興活動へのご支援ありがとうございました グジャラートの女性たちから 手工芸品が届きました

昨年のインド共和国記念日の1月26日、インド西部グジャラート州をマグニチュード7.9の巨大地震が襲いました。震源地近くのカッチ県ブージ市では建物が全壊、300km離れた州最大の都市アーメダバードでも700人以上が死亡する大惨事となりました。

この地震による死亡者は3万人。全半壊の家屋は100万戸にもものぼり、州の人口4,200万人のうち被災者は3,200万人にも達したといわれています。

## 皆様からの募金に感謝いたします

この地震の被災者の復興活動を支援しようという当会の呼びかけに対して、多くの皆様からの募金が寄せられました(募金件数4,132件、募金総額45,141,188円)。深く感謝いたします。

この募金をもとに当会は、地元のNGOであるSEWA(女性日雇い労働者協会)やASAG(アーメダバード・スタディ・アクション・グループ)とともに、地震発生直後から復興支援活動に取り組んでまいりましたが、1年余りの活動の成果をここに報告させていただきます。



手工芸品を作る被災地の女性たち



手工芸品を製作した被災女性からの御礼の手紙 2002年6月4日

まず、大地震という危機に直面した私たちに対し、(社)ジャンテ国際ボランティア会を通して寄付をし、支援の手を差し伸べてくださった日本の皆様に深く感謝いたします。

グジャラート州の多くの手工芸品職人たちにとって、昨年の地震は大きな衝撃でした。倒壊した我が家を目の前にしながら、なすすべもないという辛い経験でした。

あの時点で、私たちがすぐに必要としていたものは「仕事」です。「仕事」のみが、村と生活に日常をどたどとしてくれる唯一の手段でした。家と仕事と食糧がなくては人々に未来はありません。

皆様からいただいた手工芸品の注文のおかげで、私たちは再び刺しゅうを始めることができました。カッチ県の村々では、職人たちが大きなテントを張り、その下に皆一緒に座って、刺しゅうに精を出しました。「仕事」は私たちに尊厳を取り戻してくれました。自分たちの技術が、自分自身の生活を再建するのに役立ったのです。

職人の一人、パケラ村のガウさんは言いました。「収入が得られるようになったのおかげで、今、私たちに希望があります。」

最後に今一度、ご支援くださった皆様に心からの御礼を申し上げます。

モナ・ダバ(グジャラート州の手工芸品職人の女性たちを代表して)  
SEWA

同封の刺しゅうコースターは被災した女性職人から届いたものです。  
今回届いた手工芸品は、この復興活動支援の一つとして、この地域に住む被災した女性たちに、皆様からの募金で当会が発注し、1年たって届いたものです。  
被災者から感謝の気持ちとして、被災地の人たちを勇気づけ、手助けしてきたことの証として、この報告書と共に、どうぞお受け取りください。



地震発生から1年以上がたちましたが、政府の対応は予想以上に鈍く、復興作業は大幅に遅れています。まだ多数の地域で瓦礫なども充分に取り除かれておらず、政府の被災者向けの住宅再建や改修のための建築材料の配布も遅れており、「復興できた建物は2割にも満たない」との見方もあります。

# 1. （低所得者のための住宅再建） ASAGと協力

## ナニボル村では 270世帯のうち約100世帯が全半壊

アーメダバード県南西部ナニボル村は、とくに被災状況が深刻でした。この地域は、平均よりも20%も所得が低い地域です。SVAはここで、地元の資材、技術を使った、廉価で地震に強い住宅建設を実施するASAGを支援しました。

## 村の被災住宅のほとんどが再建完了

SVAの支援により、全半壊した家屋のうち、64世帯が新築、32世帯が改築され、計96世帯が復興しました。ちなみに、一戸当たりの平均建設費は約5万ルピー（約14万円）政府からの約30%の補助金を含む となります。

ナニボル村で再建された  
低所得者のための住宅



## 地域住民、行政、NGOの合同協議

これは、他の地域では見られないほどのスピードで、関係者がまとまって作業に取りかかった結果です。ASAGは今回の住宅再建に当たっては牛飼、農民、日雇い労働者など低賃金労働者、カーストの低い住民の代表と政府、NGO関係者が一堂に会し、再建計画を話し合うようになりました。また、一軒毎に図面を引き、耐震性に配慮し、かつ地元の文化にあった住宅を再建しました。



## SVAの

# 地震被災者支援

## 生活支援活動

SVAは昨年の地震直後2月12日にスタッフを現地に派遣。調査の結果、地震の直接被害の救援のみならず、被災者の仕事場である塩田が崩壊、手工芸品製作の停止を余儀なくされる状況で、生活の再建を図ることが重要であることが判明しました。

## 現地の2つのNGOと連携

SVAは、この地域で救援活動を進めている現地のNGO、SEWAとASAGと協力して、被災者の生活復興活動をおこなうことを決定し、後述の3つの事業を実施しました。

これらのうち、2つは完了しましたが、州全体の復興活動の大幅な遅れの中で、後述の2、保育所再建が遅れており、現在も事業を継続中です。

SVAの活動記録	2001年 2月	秦辰也(国際総局長)、藤川和美(クラフト・エイド課)を、調査のため現地へ派遣。 2月下旬、支援事業内容決定。	
	5月	ナニボル村での住宅再建事業をASAGの協力により開始。 市川斉(地球市民事業課長:当時)を現地へ派遣。 SEWAの保育所の再建が始まる。	
	8月	市川斉、川崎典子(広報課)を現地へ派遣	
	2002年 2月	秦辰也を現地へ派遣 2月下旬暴動はじまる 手工芸品(5000個)日本に到着	
	4月	ナニボル村での住宅再建、修復終了	
	5月	ダビ村の保育所完成	
	8~12月	残りの8ヶ所の保育所完成予定 完成後、最終モニタリング実施予定	

ナニボル村で再建された貧困家庭向けの住宅には、耐震用のコンクリートや鉄筋が使用されている

## 2. ( 保育所の再建と運営の支援 ) SEWAと協力

日雇いで働く女性たちには、安心して子どもを預けられる施設が必要とされている

グジャラート州内にあるSEWAの45ヶ所の保育所(0歳~6歳児)が、今回の地震で倒壊、損傷しました。

これらの保育所では1日3回の給食を子どもたちと与えるだけでなく、お母さんたちの健康診断、衛生知識の普及など、地域の「母子センター」としての役割も持っています。

### 年内には完成

SVAは損傷した保育所のうちのスレンドラナガル県とパタン県の9ヶ所を再建しています。また運営も支援しています。

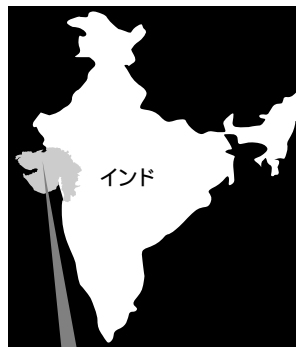
建設は、村議会、郡役所での審査、許可に多くの時間がかかり、予定より大幅に遅れましたが、年内に完成の予定です(建設中、保育所はテントを使って運営しています)。



テントを使って運営されている保育所(スレンドラナガル県)



建設中の保育所



インド

### SVAが再建支援している 保育所

- 村名 完了予定(2002年)
- ・ダビ村 / 完了(4月)
- ・アントルネス村 / 7月
- ・ダッタラナ村 / 8月
- ・アワル村 / 8月



### SVAが再建支援している 保育所

- 村名 完了予定(2002年)
- ・ターダ村 / 10月
- ・アジツウガド村 / 10月
- ・デガム村 / 10月
- ・アンジャール村 / 10月
- ・クダ村 / 12月

## 3. ( 刺しゅう職人への支援 ) SEWAと協力

### 「仕事」を作り出す支援

この地域は、独特の美しい刺しゅうや手織物などの手工芸品で世界的に有名な地域です。多くの女性たちが刺しゅう職人として生活を支えています。今回の地震で、彼女たちも家や家財道具を失いました。彼女たちにとって、倒壊した自宅は手工芸品を作る職場でもありました。

地震前、SEWAの手工芸品生産事業に参加しているメンバーは被災地のカッチ県とパタン県に5,000人いましたが、地震後には仕事を求める被災者が、12,000人にまで増加しました。

### 1日40ルピーの仕事を発注

SEWAは緊急処置として、とくに被害の大きかった被災者2000人を対象に、地震直後から2001年5月までの間に一人あたり1日40ルピー(約120円)の仕事を発注。希望により、その半分は食糧や家財道具などの物資支給としました。この活動は、被災者の女性たちにとって生活再建のための経済的支えになっているだけでなく、精神的ダメージからの回復に効果を発揮しています。

### 手工芸品はカッチ県、パタン県から

SVAに今回届いた品物は、パタン県のバクトラ村、ダトナ村及びカッチ県で生産されたものです。

# 暴動被災者支援活動

## ASAGへの支援

### 今年2月に暴動が発生

地震の被害に追い打ちをかけるように、今年2月27日、グジャラート州ゴドラ駅でヒンドゥー教徒巡礼団の乗った列車が放火され、多くの人が死傷するという事件が発生。これをきっかけに、アーメダバードを中心にグジャラート州各地で大規模な暴動が長期間続き、死者700人以上、多数の家屋が破壊されました。

### 現在も5万人が避難生活

住居が放火・破壊されたり、また命を狙われて、郷里から逃げてきた人びとが、現在もアーメダバード市内外の24のキャンプでおよそ5万人も生活しています。

### ASAGの支援活動開始

暴動の直後からASAGは、これらの人びと、とくに妊婦、子ども、高齢者、病気などの弱い立場の人びとを中心に食糧、衣服、清潔な飲料水などを提供し生活相談に応じえています。また、帰還する被災者に対しては、家屋修復のための大工道具を供与したり、修復費の補助をおこなっています。

SVAは、当初の地震被災者支援活動に加えて、ASAGが実施しているこれらの暴動被災者救援活動を支援しています。



### 今後の予定

▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶  
 予定している活動の中で、保育所の再建は今年末までかかる見込みです。また、新たに始まった暴動被災者支援の活動は現在も継続中です。

進捗状況については、今後の『シャンティ』誌上、ホームページで報告いたしますのでご参照ください。なお、直接のお問い合わせは「緊急救援室・市川」までお願いいたします。

## インド西部大地震被災者復興支援事業 2001年度収支決算書及び2002年度収支決算見込

(単位:円)

区 分	収支内訳		合計	構成比 (%)
	2001年度決算	2002年度見込		
民間資金	2000年度入金分 30,741,179	0	30,741,179	68.1
	2001年度入金分 14,400,009	0	14,400,009	31.9
(1)収入合計	45,141,188	0	45,141,188	100.0
低コスト住宅支援(ASAG)	9,778,500	0	9,778,500	21.7
暴動被災者支援(ASAG)		5,000,000	5,000,000	11.1
保育所再建支援(SEWA)	4,528,800	7,479,000	12,007,800	26.6
被災女性収入向上支援(SEWA)	1,082,695	338,000	1,420,695	3.1
現地派遣人件費	1,491,664	400,000	1,891,664	4.2
現地調査・モニタリング関係費	2,037,134	1,000,000	3,037,134	6.7
募金呼びかけ・記録・報告関係費	4,195,733	500,000	4,695,733	10.4
その他諸経費	0	0	0	0.0
(a)直接費 小計	23,114,526	14,717,000	37,831,526	83.8
(b)事務管理費 (a)×10%	2,311,453	1,471,700	3,783,153	8.4
(2)支出合計	25,425,979	16,188,700	41,614,679	92.2
(3)収支差額 (1)-(2)	19,715,209	16,188,700	3,526,509	7.8
(4)2003年度への繰越見込(緊急救援基金繰入)			3,526,509	
(5)収支差額再計 (3)-(4)			0	



社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA)

〒160 0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

Phone / 03 5360 1233

Fax / 03 5360 1220

URL / <http://www.sva.or.jp>

E-mail / [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)